働き続けられる職場づくりにむけての取り組み

ーすべての看護職員が働き続けられる職場をめざしてー

児島中央病院 看護部長　福　田　正　子

当院は、昭和59年から24時間の院内保育所「いちご保育所」を開設しています。開設当初は、看護師の子供が対象でしたが、今はすべての女子職員の0歳～4歳までの子供を対象としています。子供たちのお世話をするのは、全員資格を持った保育士です。遠足、運動会、芋掘りなど、一般の保育所に劣らない保育メニューで子供達のお世話をしてくれています。夏休みや休日には、学童保育も受け入れています。開設以来、延べ161人の職員が利用し、284人の子供たちが卒園していきました。実は私もそのうちの一人で、現在29歳の長男は学童保育で、21歳の次男は産休明けからお世話になりました。今こうして働いていられるのは、院内保育所があったお陰です。

岡山県看護協会・ナースセンターの看護職員離職者実態調査では、離職理由の第1位は「出産・育児・子供のため」となっていますが、当院ではそれが離職の理由になる看護師はほとんどいません。また、育児休暇の平均取得は6ヶ月で、早い時期から職場に復帰してくれています。平成19年9月には、おかやま子育て応援宣言企業として登録しました。子供が病気の時はもちろん、学校行事等の休みは優先的に取れるようにしています。さらに今年度から、「今よりもっと働きやすい職場環境」にするための取り組みとして、深夜明けの保育をしてもらうことにしました。今までは、深夜勤務が終わると子供と一緒に帰宅していたため、十分体を休めることができませんでしたが、16時まで続けて預かってもらえるようにしたことで休養でき、穏やかな気持ちで子供に接することができるようになりました。

「院内保育所」で看護師の定着を図る一方で、看護師確保の取り組みとして、パートタイマー、日勤常勤、夜勤専従、夜勤曜日限定など個人のライフスタイルに合った多様な勤務形態をとり入れています。また、今年の1月と2月には、「現場を離れた看護師さんの職場復帰を応援します」として、病院独自で無料サポート研修会を開催しました。医療制度、医療安全、看護技術などの研修内容で3回行い、合計14人の参加がありました。そのうち3名がパートタイマーとして就職してくれました。現在合わせて10人のパートタイマーが勤務しており、貴重な戦力となっています。

働き続けられる職場にするための取り組みは、子育て中の看護師に限ったことではなく、すべての看護師に対して行う必要があると思います。例えば、定年が近くなった看護師から「急性期の病棟では勤務がきつい」と申し出があれば、回復期の病棟に配置替えを行ったり、「夜勤ができない」と申し出があれば夜勤のない部署に配置替えを行ったり、採用時には希望の部署に配属するなど、看護師の経験や年齢、体力、能力に応じた適材適所を心がけるようにしています。

今後も、職員が安心して働き続けることができる職場づくりを目指していきたいと思います。

ベッド数：231床（一般182床　回復期リハビリテーション49床）
入院基本料：13対1
看護職員数：看護師73名　准看護師39名　看護補助者47名
看護職員平均年齢：39歳